

筒上山物語

四国で唯一
森林生態系保護地域
(コアエリア)

手つかずの自然も色濃く残ったこの周辺は森林環境保全地域に指定されている。この森に身をまかせると人間の自分達がほかの生物に君臨する様な存在ではなく、木や花や草や鳥、虫、土や岩、空気の粒まで、あらゆるものに一つづつ自然の中の一員なんだななというように感じさせてくれる。

石鎚山を真正面に見る。絶好のPOINT!! 360°のパノラマがEのしめる。静かなミニオアシスの風情。吹く風が気持ちいい。

岩黒山の南斜面に広がるシロツバクの純林やツブクサの林床に林立する。美しい風景が広がる。

古くより霊峰として親しまれてきた石鎚山。山や自然の中に畏怖の念を抱き崇め、そして共に暮らしてきた。石鎚山を中心とする山岳信仰の聖地を結ぶルートが縦の目のように広がっている。

山の奥に海の神様
海津見神社は海の神様、河川の源流部や中流域に祀られていることがある。海の神様がなぜ山奥に? 漁師たちの手さし船時代の尊い体験によって、山が煮れと魚がなくなることを体験の知恵として持ってきた山奥の祠。

手箱山(地図上で筒上山)
上古より山麓のクワリ霊験ある神祕の山として尊崇されてきた。この山をめぐって用いたのは、土佐朝江天満宮神宮である宮地崩落。3歳正月の超人的な奇蹟を修業と称する。西高島、一日も休まず10年。至誠が玉に通じ丸山社神が神々の随ってご出現し、神法秘術を授けられ神面が身につけておまの奇蹟と起こす。山内候の公許を得、信者衆人と力を合わせ、この山頂に辛苦の末に鉄鎖をかき、万延元年6月15日、御鎖を穿て仮神儀とし、文久3年、山頂に十三社を建てられた。明治に郷社となり、現在は池川神社が奉祀所管する。(万延元年・1860年・文久三年・1862年)

- 山頂十三社
- 天満宮
 - 花間神社
 - 木原神社
 - 大工神社
 - 豊受神社
 - 天照神社
 - 天武神社
 - 天武神社
 - 天武神社
 - 天武神社
 - 天武神社
 - 天武神社
 - 天武神社

石鎚山へ。白山以西の最高峰。1982m。日本百名山。日本七霊山。

四国唯一の森林生態系保護地域に石鎚山を中心に西は堂ヶ森、東は手箱山までの約4200m²が保護林になっている。

←面河へ